小呂野通信

令和７年１月号　(第４２号)
発行日 2025.1.20(月)
〒041-0806
函館市美原５丁目３１番１０号

（　写真は阿寒湖の湖上　風の無い穏やかな時にしか育たない氷の花「フロストフラワー」2025.1 月上旬友人撮影　）

「あなたの長所、短所を教えてください。」この問いに、「長所は早起き。短所は方向音痴。」と答えるようになり幾年月。正直、早起きを長所と呼べるものかは謎ですし、短所に至っては探すまでもなく、枚挙にいとまがありません。自分を傷つけぬよう、落ち込まぬようにと、絞りに絞って、まず第一に掲げるようになった短所が「方向音痴」といった有様です。

先週、慣れない土地での研修会へ参加。今回も短所をいかんなく発揮し、例えるならば、函館の丸井から、渡って向こうの北洋銀行へたどり着くまでに 30 分を要したといった具合でした。どうでしょう。イメージいただけたでしょうか。

これまでの実践の中で、たくさんの方と出逢い、出来事に遭遇し、モノゴトへの向き合い方を学んできました。そして、この学びと共に醸成されてきたのが、自身と向き合うチカラではないかと振り返っています。

福祉について学びはじめた頃、「自己覚知」というワードを、丁寧に、繰り返し伝える講師との出逢いがありました。当時、「自分のことは、自分が一番理解してるし…」と、たかをくくっていましたが、実践場面のあらゆる過程で、自身との向き合いに葛藤しました。その、自分を正しく認識するという葛藤が、ひとを知るチカラ、理解しようとするチカラに繋がることに、気づけたことは、大きな糧となっています。

はじめての場所を目指す時、いまは便利な Google マップなどの機能があり、携帯片手にサクサク検索。推奨ルートに沿って、目的地を目指すことができますが、そのルートは必ずしも、皆に合った方法とは限りません。

私たちの日々の実践も同様に、推奨ルートを辿っていては、目的地へ到達できません。それぞれにあった「よりよさ」を探し求め、出発点から目的地まで、たどり着くまでの道順を、しっかりと描けるよう、個々にあった支援体制をつくっていきたいと考えています。

いろいろ語っておりますが、無くて七癖。蛇の曲がり根性で、自分を向き合うという戦いは一生モノと想像していますが、今年はなんたって巳年です。一皮、二皮むけた実践を皆で目差します。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

副理事長　小西　真帆

前回通信発行以降
参加・活動報告🏃

毎週(火)　教育大学函館校　更生保護
毎週(水)　函館高専 SSW
9/12(木)　第６回小呂野塾　映画『幼い依頼人』
9/26(木)　地域の権利擁護体制を進めるための
　　社会福祉士の役割　zoom
9/27(金)　第７回小呂野塾　『食と気候変動』
10/5(土)　犯罪被害者遺族の講演会
10/7(月)　後見事例検討会
10/12(土)　第８回小呂野塾　『モルック体験』
10/20(日)　北海道社会福祉士会基礎研修講師
10/23(水)　司法と福祉の連携勉強会
10/24(木)　第９回小呂野塾　映画『少年の君』
10/26(土)　りんご収穫体験
10/29(火)　道南地区支部定例学習会
10/31(木)　全国権利擁護ネットワーク研修会
11/1(金)　ソーシャルワーカー三団体合同
　　研修会「権利擁護について考える」
11/13(水)　司法と福祉の連携勉強会
11/14(木)　第 10 回小呂野塾
　　『食べ物から学ぶ世界史』
11/16(土)　釧路にて
　　司法と福祉の研修会
11/23(土)　ぱあとなあ　ファシリテーター
　　倫理綱領・意思決定支援研修
11/28(木)　第 11 回小呂野塾　『産業革命と貧困
　　ソーシャルワークの起源』
12/10(火)　道南地区支部定例学習会
12/12(木)　第 12 回小呂野塾『子どもの居場所
　　～フリースクールすまいるの実践
　　から～』
12/14(土)　日本社会福祉学会フォーラム
2025
1/9(木)　第 13 回小呂野塾
　　『食べ物から学ぶ世界史』

りんご収穫体験　2024

前年と比べると、数は少ないながらも、枝がたわむほど大ぶりな実が！豊かであたたかな時間をありがとうございました🍅！

全国権利擁護ネットワークブロック研修会

身よりがなく、頼れる人がいないために、急な入院も困難になるなどのケースがあるとして、そうした方への権利擁護支援のあり方を考える研修会が 2024 年 10 月 31 日亀田交流プラザで開かれました。(会場参加 25 名、オンライン参加 39 名)

この研修会は、社会福祉士や弁護士などでつくる全国権利擁護支援ネットワークが開いたものです。

研修会では、函館市には高齢者や生活保護を利用している貧困世帯が多いと社会福祉士の立場から湯淺より指摘した上で、支援の必要な方々がいわゆる貧困ビジネスに巻き込まれないよう格差が生じない支援が必要であることを訴えました。

主催団体からは、身寄りがないなどを理由に急な入院や賃貸物件の契約で、相場よりも高い利用料を取られたりするケースがあるとして、国の制度づくりも急務だと話されました。

国が身元保証のガイドラインを作成するなどの動きがありますが、民間事業者に頼るのではなく、地域で身よりのない方を支えていく視点を持ち、支援を展開していけるよう、引き続きよりよい支援体制構築に向け、取り組んでいきます。

なお、この研修はその後、NHK 函館放送局にて取り上げられました。

第 12 回小呂野塾『子どもの居場所
～フリースクールすまいるの実践～』

第 12 回小呂野塾では、一般社団法人函館圏フリースクールすまいるの庄司証さんを講師にお招きし、すまいるの実践、こどもの居場所とは何か等について、お話いただきました。

小呂野では近年、スクールソーシャルワーカー等の取り組みから、若い方々と関わる機会が増え、どう生きていくかわからぬコ、人生をイメージできぬコがたくさんいるのではないかな？と感じていました。

子どもたちは生きるチカラをちゃんと持っていること。大人の役割は、その生きるチカラを発揮できる機会をつくることであることを学びました。

居場所についてはヤドカリを例に話され、殻はヤドカリにとって安心と安全の確保であり、成長に応じ変化すること、環境の質の重要についてもとてもわかりやすくお話いただき、イメージすることができました。

不自然で、歪んだ場所を居場所としている、せざるを得ない子どもたちの存在に気づき、社会の側である私たちが、皆でよりよい社会を目指し、模索していく必要があることを学ぶことができました。

よりよく生きるを支援するひと

昨年 10 月３１日に行われた全国権利擁護ネットワーク研修会にて、運営を担われていた京極町社会福祉協議会事務局長の**駒田拓朗さん**に、今回インタビューさせていただきました！

初心、勢い、心意気を忘れない。駒田拓朗さんの THE FIRST TAKE STAGE です。

Q1　今のお仕事とその中で一番大切にしているもの

社会福祉法人京極町社会福祉協議会で、事務局長として事業に関する進捗管理をする傍ら、地域の権利擁護支援システムの確立を目的にしている全国権利擁護支援ネットワークの運営委員を拝命し、権利擁護支援の質向上と仲間づくりに取り組んでいます。大学卒業後、知的障がいがある方の支援事業所を経て社会福祉協議会職員となり、約２０年が経過しました。これまでの中で、私が一番大切にしていることは「独りぼっちにしない、独りぼっちにならない」です。これまでの現場で、ご本人はもちろん、ご本人の家族やその人を支える専門職、行政の方、地域の方が「独りぼっち」になっている場面に沢山直面しました。私自身も仕事で独りぼっちになったことも。困っているけどどうしたら良いのかわからない、もうあきらめている、誰もわかってくれない、仲間がいないなどなど。必ずしもその人が望むハッピーエンドを迎えられないかもしれない、だけど一緒に考えたり、一喜一憂してみたり。紆余曲折もありながら主人公の人生に黒子としてその人の生き方をお手伝いしていく。そんなことを大切にしています。

Q2　支援者になったきっかけ

私が１９歳のころ、母が重い脳出血で右半身まひになってしまいました。私自身はそれまで福祉のことなど全く知ることもなく、アルバイトをしながらぶらぶらしていたのですが、母の通院やデイサービスの送迎、介護をする中で介護従事者の方や当事者家族、ボランティア活動をしている方などに出会い、福祉の重要性やその活動の魅力に触れたことが福祉に関わる入り口だったかなって思っています。また、大学３年生の時に獣医師だった父が若年性アルツハイマー型認知症になり、両親の介護のため大学を中退しようと考えていたところ、その時のケアマネージャーさんが「息子さんの一番大切なご両親への関りは介護することではない。いつでもご両親に心からの笑顔を見せられることですよ。だからご両親の介護は心配せず勉強を頑張ってください。独りぼっちじゃないですよ。」と言ってくださいました。お名前もお顔も忘れてしまいましたが、その時の言葉を今も覚えています。そのケアマネージャーさんのような支援者になりたい、そう思ったのが支援者を志した大きなきっかけでした。

Q3　今後取り組みたいと考えていること

現在は事務局長という役割であることから、個別の支援に入るということは少なくなっています。その分増えてきているのが、施策や事業構築に関する会議や、福祉分野だけでない「まちづくり」の会議に出席する機会です。日々地域の方や支援従事者の皆さんが感じた「課題」や「より良く」について、より多くの人たちと一緒に共有し、考えていく、そして老若男女、障がいの有無や性別などに関係なく誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていく、そんな場面を一つでも多く創りたいと思っています。

Q4　小呂野へのメッセージ

小呂野さんの理念である「“より良く” 生きるを支援する」を考えました。より良く生きるとはどういう状態だろう？権利が守られること？選択肢があること？困った時、社会保障を受けることができること？排除されず、誰もが社会参加できること？自分の夢や目標にチャレンジできること？あれこれ沢山浮かんできます。「より良く生きるを支援する」とはどういうことか？そのために必要な取り組みや知識、技術は何なのか？小呂野さんとフィールドは離れていますが、ぜひこれからも意見・情報交換しながら「より良く生きるを支援する」を探求していきたいなと思います。引き続きよろしくお願いします！

続　塵も積もればプロジェクト

経過報告

前号通信で取り組みの告知をしておりました「塵も積もればプロジェクト」

スタッフ、会員さん、HP を見てくださっている皆さんから、“眠っているけど、まだ使えそうなモノ” や “使わないような古切手” などの寄付をいただき、１月中旬現在、目標達成率 20%…といった状況です。

小さな取り組みをコツコツ重ね、必要な方に役立てる糸口に。

地道に、でも着実にプロジェクトに取り組みながら、次のステップへどう展開させ、結び付けていくかのがよいか。

また経過をご報告いたします！

スタッフ鳥ピーコ！

マネジメントするチカラ

最近手に取った雑誌に知床についての掲載がありました。2025 年は、知床が世界自然遺産に登録されて 20 年の年で、大正時代に開拓がはじまり、現在では漁業や観光業が盛んな知床では、さまざまな課題を乗り越え、今は野生動物との共存という難題に向き合っているという内容でした。

流氷がもたらす豊かな海の生態系と、原始性の高い陸の生態系とのつながりが評価されて、2005 年に知床は世界自然遺産登録。川をサケが遡上し、そのサケをヒグマが食べたり、オオワシやオジロワシが魚を捕食したりして、海の栄養が陸へ運ばれる。流氷の水が豊かなのは、海水が凍る際に、塩分等が凝縮され、氷の中に閉じ込められるため。やがて氷の下層から海の深部へ沈んでいき、入れ替わりに深部の栄養豊富な海水が浮上、植物やプランクトンを育んでいく…。

こうした自然の摂理によって、流氷にはプランクトンからシャチ、クジラに至るまで、豊かな食物連鎖が形成されているそうです。

オーバーツーリズムへの対処にも注目で、来訪者の人数をコントロールすることで、人の踏みつけから植生を守ることができ、野生鳥獣との軋轢を減らしている。そして、来訪者の数に頼って収益を確保する発想から、価値を正当に評価してもらって、収益につなげる発想への転換をしたとのこと。

全国でクマの出没が問題になっていますが、知床では 2016 年から野生動物との共存に関する専門職養成が始まっており、ヒグマの目撃件数はこの 20 年で激増、一昨年は２千件に上った中、知床では観光客や住民とのヒグマの人身事故はゼロ。それは偶然ではなく、学校でのヒグマ授業や、一般の方が理解できるよう井戸端会議ならぬクマ端会議を開催するなど、野生動物と共存する意識の醸成への取り組みがなされており、これらの対策の賜物なのだろうと感じます。

私たち小呂野も、よりよい地域社会、土壌づくりに取り組みながら、時間はかかっても、取り組みに対する正当な評価を求め、なんかへん！な社会を、へんじゃない社会！に変化させられるように、複雑な問題に向き合い、課題解決に向けた思考錯誤をしていきます。

軌跡は遺産。歩みを止めず、小呂野は１５年目に突入します。

チーム結成？！

第８回小呂野塾は『モルック体験』でした。チーム harunosora の森綾子さんを講師に招き、基礎知識を学び、コツ・投げ方の練習、そして試合を行いました！どんなことにも言えますが、見るとやるとでは大違い。とんでもないところに飛んでいくは、ビックリする程倒れないはで柄にもなく大はしゃぎと闘争心…。何より実際やってみて感じたことは、頭脳戦であるということ。勢いでどうにかなるというものではなく、戦術が大切。

適度にカラダを動かし、頭も使うモルック。またやろう！からチーム結成話にまでエスカレートしています。

興味のある方はぜひ一度、一緒にモルックしませんか！

1/27 は NPO 法人小呂野の設立記念日です

2011 年に法人認証を受け、今年で 15 年になります。1/27(月)はこの節目を感じられる日にしたいと思っています。珈琲でホッと一息つきに、是非事務所へいらしてください。

しまちゃんのひとりごと

いろんなモノの値段が高くなっている。お隣の国の大統領という人が逮捕。今年がはじまってまだ少しですが、日本で世界で、色んなことが起きています。

先日わたしはお誕生日を迎え、どんな一年にしようかと考えていました。

阿寒湖の上のフロストフラワーが見られるのは、ひとつの要因だけではなくて、様々な要因が合わさってはじめて、姿を現わしてくれるみたいです。

小呂野がこうして活動を継続できていることも、決して当たり前ではなくて、色んな人の支えがあって成り立っていることを、スタッフの皆にしっかり伝えますね。

ファイターでチャレンジャー！冒険はつづきます。

しま

おまちしています！

〒041-0806
函館市美原５丁目 31-10
TEL　0138-83-8471
FAX　0138-83-8472
MAIL simasakura1@gmail.com

特定非営利活動法人　小呂野
ゆあさ社会福祉士事務所

湯淺　弥　　湯淺　留美
湯淺　しま　　高橋　鑑一
小西　真帆　　前川　智也
藤山けやき　　宇美　隆浩